

日本建築学会 農村計画委員会 集落居住小委員会

公開研究会—むらを住み継ぐカタチ #05

石巻旧十五浜 被災集落の流動的居住とその行方

2015.10.31(土) 14:30—17:30

会場：ナミイタ・ラボ

(宮城県石巻市雄勝町分浜字波板 140-1)

定員：30名(申込先着順)

参加費：①会員 1,000円(資料代含む)

②会員外 1,500円(資料代含む)

③学生 500円(資料代含む)

申込方法：事前申込；催し物名称を記し、氏名・勤務先・所属・同住所・同電話番号を明記し、メールにて申し込む。

申込締切：10月16日(金)まで

申込先：大沼正寛(東北工業大学)

ohnumans@tohtech.ac.jp

[次第(予定)]

14:30 挨拶/岡田委員長+山崎主査

趣旨説明 大沼正寛(東北工業大学)

話題提供1 復興集落・流動的居住の事例：集落居住小委員会委員

話題提供2 十五浜の環境資産と生業：宮定章(まちコミュニケーション)

話題提供3 十五浜住民のくらしの現在：李仁子(東北大学)

16:00 ディスカッション「被災地方における流動的居住の現状とこれから」

パネラー 高橋頼雄(雄勝硯生産販売協同組合)

徳水博志(元 雄勝小学校教諭)

山下恵美(雄勝生活研究所)ほか地元住民の方々

李仁子、宮定章、大沼正寛(前掲)

17:15 まとめ：福留邦洋(東北工業大学)

17:30 終了(予定) 他に、エクスカージョンを予定

震災後5年目の被災地だが、10年の復興計画の折り返し地点に入る実感はない。同族的なまとまりを重視する東北の集落は、被災前から縮退の傾向にあったとはいえ、旧来の、やや狭く閉じたコミュニティをしぶとく維持してきた。そこに災害が襲来し、慣習に固執してよいのか、問題を突きつけられた。比較的東京に近く、中央志向の経済にすり寄っていた近代の経済的精神的構造が問題を先送りしてきたようにも映る。

具体例として、宮城県石巻市雄勝町・河北町沿岸部、すなわち旧陸前国桃生郡十五浜地方を眺める。石巻市は平成17年に超広域合併して日が浅いあいだに震災に遭い、地域個別の事情が汲み取られにくい構造に苛立ってきた。豊かな地域資源に恵まれる一方、甚大な津波被害で多くの生命・財産を失い、かつての集落を元の場所で再生できる事例は極めて少例にとどまっている。とはいえ石産業や山海資源を元にした雄勝地区、牡蠣漁師の協業組織が立ち上がった河北大川地区と、再生への胎動や、両地区からの大規模な集団移転先での新たなコミュニティ形成もみられる。

現代被災集落の末路は縮退か、それとも転生/再生は可能か。海辺の小さな復興施設にて討論を行い、克服の糸口を探りながら、居住の流動性とフロンティア集落居住の将来像を考えたい。